

沖縄市北部川崎川支流の上流部にある湿地帯等の令和 7 年度の有機フッ素化合物
調査結果について

経緯・目的

- 県のこれまでの調査で、沖縄市北部にある産業廃棄物最終処分場内に溜まっている水等から高濃度の PFOS 等有機フッ素化合物（以下、「PFOS 等」という。）が検出されたため周辺河川の調査を実施したところ、川崎川（天願川の支流）の当該処分場の流域である川崎川（天願川の支流）北側支流とは流域が異なる川崎川西側支流において比較的高い濃度で PFOS 等が検出された
- 当該処分場とは別に何らかの汚染源があることが示唆されたことから、川崎川支流の上流部にある湿地帯の汚染状況を把握するため、令和 4 年 2 月に湿地帯内 8 地点で PFOS 等の調査を実施したところ、7 地点で環境省が定めた暫定指針値（※）である 50 ng/L を上回る濃度の PFOS 等が検出された。
（※令和 7 年 6 月 30 日付け環境省水・大気環境局長通知において、「暫定指針値」から「指針値」へ取扱いの見直しが行われた。）
- 令和 5 年 1 月、湿地帯内 7 地点、周辺河川 6 地点で調査を行ったところ、湿地帯西側の地点で濃度が高くなっていること等から、汚染源となる PFOS 等は湿地帯西側からの表流水、あるいは地層中や旧谷地形（埋没谷）の底部を流れる地下水が湿地帯に湧き出すことによってもたらされている可能性が高いことがわかった。
- 令和 6 年 2 月、湿地帯 3 地点、周辺河川 1 地点及び地下水 1 地点の合計 5 地点で PFOS 等の調査を行ったところ、4 地点で暫定指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かった地下水中からは、11,000 ng/L が検出された。
- 令和 7 年 1 月、湿地帯 3 地点、周辺河川 1 地点、地下水等 4 地点の合計 8 地点で PFOS 等の調査を行ったところ、7 地点で指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かったのは、埋没谷に設置した観測井戸から採取した盛土層内保有水の 24,000 ng/L であった。
- 令和 7 年度は、さらに汚染源の絞り込みを行うため、令和 7 年 1 月の調査地点に地下水等の調査地点を 2 地点追加して PFOS 等の調査を行った。また、盛土層ボーリングコアから深度毎に土壌を採取し、2 地点、計 23 サンプルを用いて PFOS 等の調査（溶出量試験）を行った。

結果

- 水質の調査結果は表 1 のとおりで、調査した 10 地点中 9 地点で指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かったのは、盛土層内保有水の 18,000 ng/L であった。
また、土壌の調査結果は表 2 のとおりで、調査した 2 地点 23 サンプルで、最大 160,000 ng/L が検出された。

表 1. 水質調査結果一覧（採水日：令和 8 年 2 月 16 日）

調査地点		PFOS	PFOA	PFOS + PFOA	PFHxS	6:2FTS
地下水 (国頭礫層)		550	670	1,200	4,000	400
		1,200	580	1,700	2,300	250
		1,000	2,100	3,100	7,300	1,700
		170	230	400	1,000	300
		4,500	1,400	5,900	7,100	970
盛土層内保有水		18,000	840	18,000	3,000	950
湿地帯	B	2,100	340	2,400	1,900	370
	D	860	290	1,100	420	300
	Q	5.1	2.3	7.4	2.9	8.0
周辺河川	8	870	300	1,100	2,000	540

※単位 (ng/L)

※PFOS+PFOA の値は、数値の丸めの関係で合計値の和と一致しない場合がある。

表 2. 土壌調査結果一覧（土壌採取日：令和 8 年 1 月 29 日、2 月 2 日）

調査地点		PFOS	PFOA	PFOS + PFOA	PFHxS
土壌	地点①計12サンプル 掘削深度 0～14m	0.8～29,000	0.8～720	1.8～29,000	7.9～1,600
	地点②計11サンプル 掘削深度 0～14m	26～150,000	3.9～5,000	70～160,000	12～25,000

※単位 (ng/L)

※PFOS+PFOA の値は、数値の丸めの関係で合計値の和と一致しない場合がある。

※上表は、地点毎、各深度の土壌試料測定結果の最大値、最小値を示す。

※土壌の PFOS 等については、基準値等が定められていない。

※県環境保全課が令和 5 年度・令和 6 年度に実施した有機フッ素化合物残留実態調査の結果では、県内全市町村で各 2 地点、合計 82 地点で PFOS 等の土壌調査を実施しており、PFOS が 0.2～92 ng/L、PFOA が 0.6～95 ng/L、PFHxS が定量下限値未満～9.4 ng/L の範囲で検出されている。

今後の対応について

○今回の調査結果に基づき、関係機関と連携して湿地帯のモニタリングを継続するとともに、汚染源、汚染範囲、汚染原因の特定に向けて取り組む。